

第3回 神戸医療産業都市の将来像についての検討会 議事要旨

日 時：2024年5月30日（木）14時00分～16時05分

場 所：クリエイティブラボ神戸2階イノベーションパーク

参加者：大前委員、川本(実)委員、黒田委員、高橋委員、武田委員、辻本委員、南雲委員、橋田会長、藤村委員、前田委員、宮尾委員、村上委員
(50音順)

1. 将来像（案）説明
2. シンポジウムでの意見紹介
3. 神戸医療産業都市の将来像
 - (1) 神戸医療産業都市が目指す姿について
 - (2) 今後の施策展開における視点について
 - (3) 各視点における取組み項目とその方向性について

I. の項目について

橋田会長

- ・副題にはまさに我々の議論により伝えたいことが表現されている。
- ・医療技術・創薬・医療の領域で産学官医4者のリソースを活用することが極めて重要。
- ・今までは施設をつくり、場の提供を行い、多くの企業・団体・大学等に進出していただいた。今後は我々の提言で示す方向性を推し進めるための組織にぜひ進出していただきたい。
- ・アカデミアと企業の連携を進めるうえでは、トランスレーショナルリサーチに力を入れていくべきだと考える。そのための公的なサポートは非常に高いレベルで提供されていると考えている。メディカルクラスターにはトランスレーショナルリサーチを実現することが可能な病院が集まっており、企業とのマッチングをより充実させてほしい。
- ・病院側のニーズとして、「医療」の考え方やデータの取扱いなどがあげられる。それを解決するシーズを持ったスタートアップ企業等とのマッチングをさらに強力に進めてほしい。
- ・市民福祉の向上への貢献については、メディカルクラスターを形成する各病院がそのゲートウェイになる必要があると考えており、医療産業都市の成果を実臨床に導入する役割を担い、市民に見える形で還元させていく必要があると考える。

村上委員

- ・クラスターに集積する企業や大学等からのニーズやシーズをマッチングさせるためには、連携が大変重要である。神戸医療産業都市においては、研究・開発の現場と臨床現場が隣接していることが極めて重要なポイントであり、一連の流れができることで開発も進みやすい。
- ・企業の誘致においては、既に進出している企業・団体の意見をヒアリングしながら、企業等の成長を促進するために不足している要因が何かを判断し、その要因を解消するための誘致活動を行っていくことが重要である。
- ・神戸医療産業都市の情報を発信するうえでは、各々の企業や団体がバラバラで行うのではなく、クラスター全体が連携し、成果をPRすることも重要だと思う。

南雲委員

- ・神戸市の取り組みにおいては、独自の神戸モデルが注目されてきた。例えば、以前、独自のプライマリーケアを試行的に取り組んではどうかと提案を行った。今回は将来像ということで具体の政策は書き込まれていないが、今後の政策形成において、革新的な神戸モデルが提言されることに期待している。
- ・例えば、製薬会社と臨床研究を実施するとともに、認知症の方のための新たなまちづくりにも貢献するという取組が考えられるが、このような多面的な取り組みを実施できるエリアは、神戸市以外にはあまりないと考える。神戸市が中核となり、様々な疾患の治療や、医療サービスの提供に取り組んでいる企業と市民をつなぎ、疾患啓発や生活習慣を改善させるヘルスケア施策をリードするまちづくりの取組に多層的に取り組まれない。
- ・橋渡し機能のさらなる強化と医療サービスの向上が並列表記だが、その2つがどうつながっていくかが表現されていない。臨床研究や治験等の情報発信を神戸市全体で取り組み、十分な医療サービスが提供されていない人に積極的に治療機会を提供していくことに大きな意味があると思うため、報告書にもそのような文章を盛り込んでほしいと思う。

II. の項目について

黒田委員

- ・産業化の定義に関しては、記載のとおりで異論はない。記載のある分野はどれも最先端の分野であり、それにかかわる産業も変化の波が非常に激しい中でフェーズ転換が必要ではないかと考える。例えば、細胞治療における現状の製薬技術は、今までの低分子化合物製造とは全く異なっている。必要とする原材料、施設、要件、評価する項目や治療するデバイスなど、すべての工程において関わってくる産業が変化することが想像される。
- ・コミュニケーションの重要性はこれまでも述べてきたが、コアとなる部分は既に神戸にはあり、コーディネート機能を強化することにより、産業一帯がポートアイランド内で活性化することが期待される。それが神戸の強みや特色という風になってくるのではないと思う。

武田委員

- ・神戸医療産業都市ならでは「産業化」ということを表せる活動があればいいと思う。例えば、医療機器は医工連携が無くてはならないものとなっている中で、神戸で取り組んでからこそ成果つながったというアピールをできれば良いと思う。
- ・再生医療分野においても世界に誇れる研究が生まれてきている。世界の最先端で活躍できる研究者が神戸を選んだ理由を掘り下げて考えることで、都市の発展に寄与する戦略につながると思う。
- ・人材育成においては弊社の事例で例えると、経験者採用を取り入れることで、多様性に富んだ組織が形成されつつあり、良いチームの形成につながっている。神戸という土地を選ばれる理由が何かを分析し、神戸医療産業都市の今後の発展につながる戦略を検討してほしい。

高橋委員

- ・新たな施策を打ち出すうえでは、過去の取り組みの延長でなく、新規性を示すことができればよりよい報告書になると思う。施策の検討にあたってはより貪欲になってほしい。
- ・成功事例を作ることは重要であり、これまでの総花的な施策展開も大事だが、それは一旦忘れて、どこで花を咲かせるかを考えることが大事になってくるのではないと思う。

- ・再生医療の分野においても、自動化・AI化は必須であると認識されている。自動化・自律化を進めていく上で技術も相当進歩し、実用化の段階に進んでいる。ただ、人材難という課題があり、自動化・AI化を進める人材をどう育てていくか、最初の資本投資を誰がするかということを考えないといけない。
- ・人材に関しては、産業構造が工業化のフェーズから情報化に移っていく中で、活躍できる人材も変化しているということを強く認識しないといけない。そのような人材からは、世界規模で見ると多様性に関する寛容さを持つ地域やクラスターが選ばれている。国籍、性別、神経発達など、様々なバックグラウンドを持つ方が活躍できる場をいかにして提供できるかが重要なポイントである。神戸の港町の歴史は相当なアドバンテージになる。市としてできることを総動員するべきときに来ていると考える。

宮尾委員

- ・連携というワードが多く発言されていたが、連携のメリットとして、研究内容等を試せる環境があることが重要だと考える。
- ・また、臨床というワードもあったが、その臨床の意味はもっと深く、医療に限らず、工学・情報などにもつながり、一つの組織に閉じていた情報・技術がオープンになり、それぞれのアイデアが実践的に試せるようになることが連携だと思う。それこそが技術者を惹きつける大きな魅力だと思う。その環境を整えつつ、アピールしていくことが重要だと考える。
- ・人材育成の観点では、今後の課題として考えたい。先端技術領域は研究人材にフォーカスされがちだが、経営人材にもっとフォーカスを充てるべきだと考える。ここで文系人材をどのようにして投入していけるかを考えてほしい。

Ⅲ. の項目について

大前委員

- ・一般的な人材の集積について、若者世代に対して、医療産業都市の進出企業の公開イベントやシンポジウム等を開催し、若者が医療産業都市に触れる機会を増やすことで、学びや働く場所として認知してもらうことができれば、人材の流出を防ぐことができると考える。
- ・アンカー神戸は、神戸医療産業都市との連携が開設の目的のひとつであったこともあり、若者だけでなく、多様な人材の交流拠点、ハブとしての役割を果たしていきたい。
- ・スタートアップと大企業が連携することでオープンイノベーションが広がると思う。アンカー神戸では様々なアクセラレーションプログラムやマッチングイベントを実施し、スタートアップの支援を行ってきた。ベンチャーキャピタルや金融機関とのネットワーク形成のフィールドにもなり得ると考えており、連携のフィールドとして活用してほしい。
- ・まちの魅力向上に関しては、シンポジウム等で市民と神戸医療産業都市の交流の機会を創出していると思うが、開催後の意見にもあった通り、専門的な内容のイベントだけでなく、市民に馴染みやすい内容にすることで参加のハードルを下げることができると思う。

川本（実咲）委員

- ・神戸らしさとして、古くから港町として栄え、間口の広さや懐の深さを備えていることに改めて気づいた。神戸医療産業都市においては、市民からの認知度が低いことがもったいない点であると感じており、情報発信の重要性に改めて気づいた。
- ・まちの魅力向上について、時期的に雑草が生い茂っており、これから栄えていくまちが不安になった。企業交流の観点から、進出企業が集まり、草刈りをしてはどうかと思う。
- ・今後、神戸空港の国際化などもあり、海外からの流入が増えてくると思う。外国人街を作

れば、外国人のコミュニティが発生し、そこに日本人が入ることでプチ留学体験が可能になると考える。また、淡河など都会に近い田舎と連携し、人を呼び込む方法も考えられる。

- ・コーディネート機能の強化は重要な観点であり、企業が進出した後に情報収集が容易であり、相談窓口がどこにあるかわかりやすくしていただきたい。

藤村委員

- ・ポートアイランド2期のまちのすがたとして、潤いや魅力にかけていると感じる。
- ・計画的に産業集積を行ってきたポートアイランド1期や、外国人が住まうことをコンセプトとした六甲アイランドとは異なり、限られた予算をなんとか活かしながら作ってきたポートアイランド2期では成り立ちが違い、今の姿・課題につながっていると考えている。
- ・若い世代を呼びつける方策について、1期と2期を併せて魅力あるまちづくりを検討されており、方向性は間違っていないと思うが、もう少し具体的な内容を盛り込んでほしい。
- ・一つは、民間の不動産投資を呼び込むために何ができるかという点である。経済界と連携してなにかできないか考えている。医療産業都市は1期に比べると構想開始前のマニフェストはなく、見本市も開催されず、情報発信がもとより適切に行われていなかった。
- ・神戸商工会議所で都市力強化委員会があり、都市力の強化などを議論されており、リボンプロジェクトからこの将来像検討に橋渡しができると考えている。
- ・公共空間の充実によるエリア価値向上のためには、公共事業だけでは限界があり、民間の不動産投資を呼び込むポテンシャルや魅力を発信していく必要がある。魅力を生んでいくためにはエリアマネジメント体制を構築することが必要であり、神戸医療産業都市の進出企業にも参画してほしい。
- ・民間のセンスが入り込んだ形で魅力ある場所づくりを実現してほしい。については、「全ての者にとって魅力あるまちとなるよう、商工会議所等経済界と連携したマニフェストによるエリアのブランディング・情報発信を進め、新しいエリアマネジメント体制を通じた公共空間の充実によるエリアの価値向上を図り、民間事業者の不動産投資により、高質なインキュベーション施設整備を実現する」と具体的に書き込んでほしいのではないかと思う。

IV. の項目について

辻本委員

- ・インバウンドを考えるには、世界基準でどうかということに留意する必要がある、日本でトップというだけでは、インバウンドの獲得は難しいのではないかなと思う。
- ・アジリティのある実証事業や研究活動は神戸医療産業都市では新しいかもしれないが、海外では当然のように行われている。
- ・総花的な事業展開の考え方は難しいと感じる。今後の施策展開においては選択が必要であり、今までの取り組みをやめることに迫られる。これを機に、選択に若干の痛みを伴うとしても、世界基準のまちづくりを進めていただきたい。
- ・他都市と比べるだけではなく、神戸の独自性を打ち出していくことも重要であると思う。神戸に来て、居続けたいと思う要因は仕事や有名な研究者がいることにもあるかもしれないが、人が暮らす環境そのものにもあると思う。神戸で暮らせて嬉しいと思える環境を整えることがインバウンドの獲得においても重要だと思う。
- ・アウトバウンドはネットワークの橋渡しをしていくことが重要であり、神戸でも既に支援を実施されている。もう少し本格的なハンズオンでの支援の取り組みがあればさらに良い取り組みになると考える。

- 日本のベンチャーキャピタルにも課題があり、日本のスタートアップ企業においても、国内ではなく、リスクマネー文化が根付いているアメリカで勝負し、イノベーションを推進されている。再生細胞医療の分野においては、韓国や台湾等のアジア圏でも活発化している。
- 魅力なくして、強いハンズオンなくして、神戸空港を国際化したとして、ツーリストは呼べるかもしれないが、働く人は呼び込めないと考える。

前田委員

- スタートアップ支援はもう少し議論されても良かったと思う。実装や実証実験などの点において、スタートアップには弱みがあり、そのサポートはこれからも必要になる。研究成果を製品化することが苦手である。そのギャップを早く埋めないといつまでも産業化につながらない。医療機器や医薬品においてはレギュレーションをわかっている人がハンズオンでサポートしないといけないと思う。
- 海外のスタートアップのスピード感は日本より格段に早い。競争に勝つためには情報がとても大事で、ジェトロや神戸市の海外事務所のサポート等が大事になる。
- マルチナショナルな企業が神戸市内にはあり、そのような企業とディスカッションしたり、情報交換をしながらステップを踏み、海外での実践に臨むことを考えてはどうか。
- 国際的な人的交流に関しては、何をアピールするかが重要だが、税制優遇等のファイナンス上のメリットや、国内でのシェアが高い進出企業との良いパートナーリングが期待されること、また理化学研究所や近隣のアカデミアには卓越した技術があることなどを売り込んでいくと効果があると思う。
- 多様性の観点、特にジェンダーについては、弊社の海外での取り組みとして、職員の娘を職場見学に招き、サイエンスに触れる機会を作ったり、女性リーダーから女子学生とキャリア目標について話したりする取り組みを行っている。神戸市内にも女子校もたくさんあり、そのような機会を今後提供することができればよいと思う。

以上